

水試の

何でも魚ッティング

No.54

寒ダラ漁の見通しについて

① 平成20年1～2月の寒ダラ漁獲量は250トン前後で、昨年の553トンを大きく下回りますが、**平年並みとなるでしょう(過去20年平均241トン)**。

② 魚体は、50～70cm(3～4キロ)が中心となるでしょう。

③ 初漁日(マダラ50k以上水揚げ10隻以上)は**1月15日前後**となるでしょう。

① 12月の延縄漁業での1隻1日当りマダラ漁獲量(CPUE)が多いほど翌年1～2月の寒ダラ漁獲量が多い傾向があります。したがって、寒ダラ漁獲量は、12月20日までの延縄CPUEから計算し、250±50トンと予測しました。

なお、この予測値は「卓越年級の漁獲は4年後から増大し5年後に最大となり6年後以降減少する」という中期的な変動とほぼ合致しています。

② ここ3年間寒ダラの豊漁を支えた平成13年級が7歳となり大型になりますが、尾数は昨年より大幅に減少するでしょう。したがって、魚体は4歳(50cm台)と5歳(60cm台)が中心となると予測しました。

③ 底びき網の初漁日は、寒ダラ漁獲量の多い年ほど早まる傾向があります。今期は平年並みの漁獲量が予測されることから、平年並みの初漁日になると予測しました。

山形県水産試験場 研究専門員 石向 修一

注目事項

平成18年生まれのアマコ(30cm前後)の混獲が、昨年の春以降底びき網で増加しています。同様な情報は石川県以北の日本海各県からあり、平成18年生まれは卓越年級ではないか? 現在各県で検証中です。卓越年級である場合は4歳になる平成22年から漁獲が増大することが期待されます。

山形県マダラ漁獲量(1～2月、全漁業)

